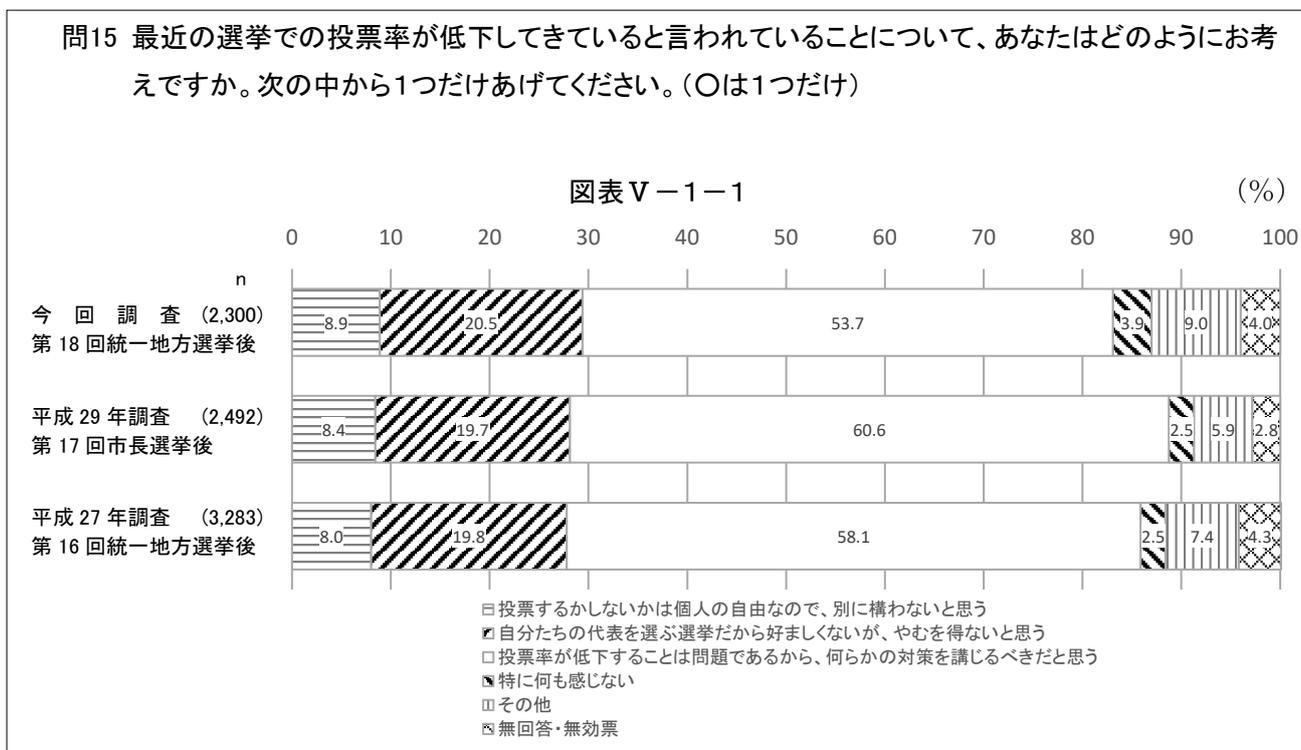


V 投票率や制度の改善に関する意識

1 投票率の低下

◇ 「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 53.7%

問15 最近の選挙での投票率が低下してきていると言われていることについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけあげてください。(○は1つだけ)



最近の選挙での投票率の低下について聞いたところ、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 53.7%と最も多く、次いで「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」(20.5%)、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(8.9%) などとなっている。

平成29年調査(第17回 市長選挙後)と比較すると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」(53.7%)は、前回(60.6%)より6.9ポイント減少している。(図表V-1-1)

性・年齢別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」がすべての年代で最も割合が高く、男性 18～29 歳及び女性 18～24 歳以外は、5 割以上の高い割合となっている。(図表 V-1-2)

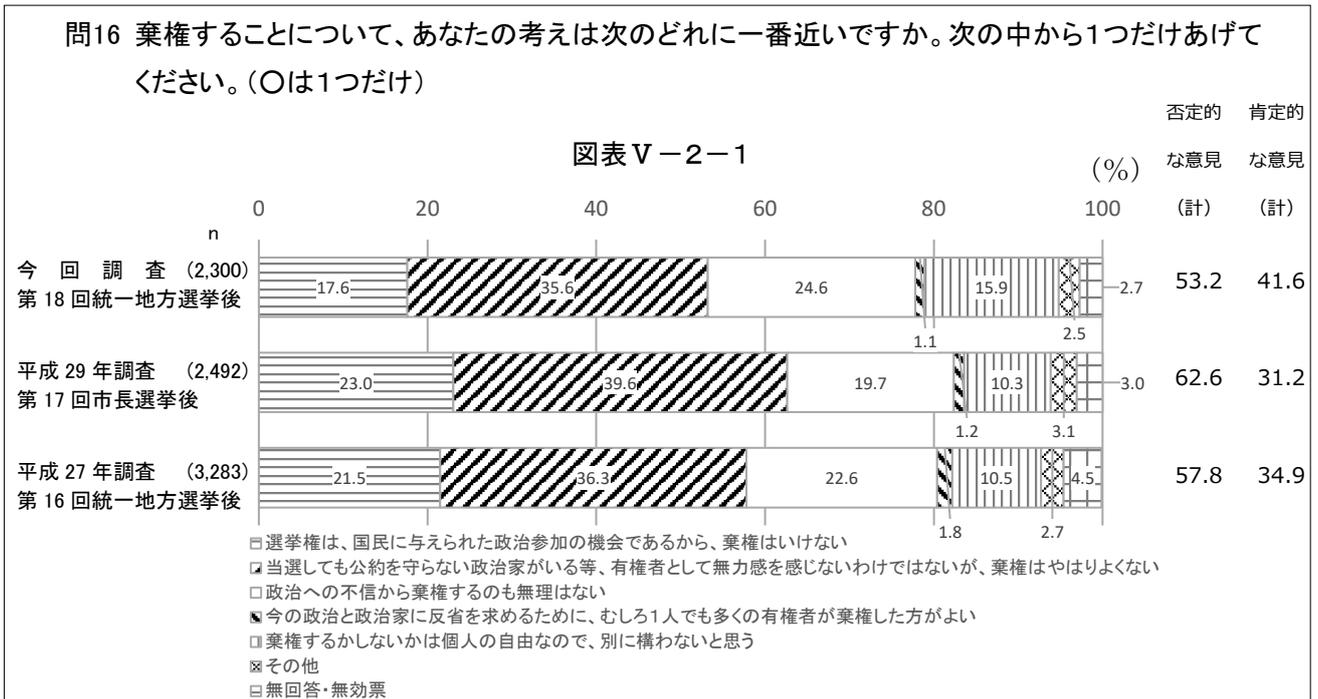
投票参加別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」は投票した人 (62.1%) の方が、投票しなかった人 (38.7%) より 23.4 ポイント高くなっている。一方、「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」は投票しなかった人 (25.3%) の方が、投票した人 (18.1%) より 7.2 ポイント高く、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」は投票しなかった人 (13.8%) の方が、投票した人 (6.2%) より 7.6 ポイント高くなっている。(図表 V-1-2)

図表 V-1-2 投票率の低下(性・年齢別、投票参加別)



2 棄権に対する考え方

◇「棄権はやはりよくない」が 35.6%



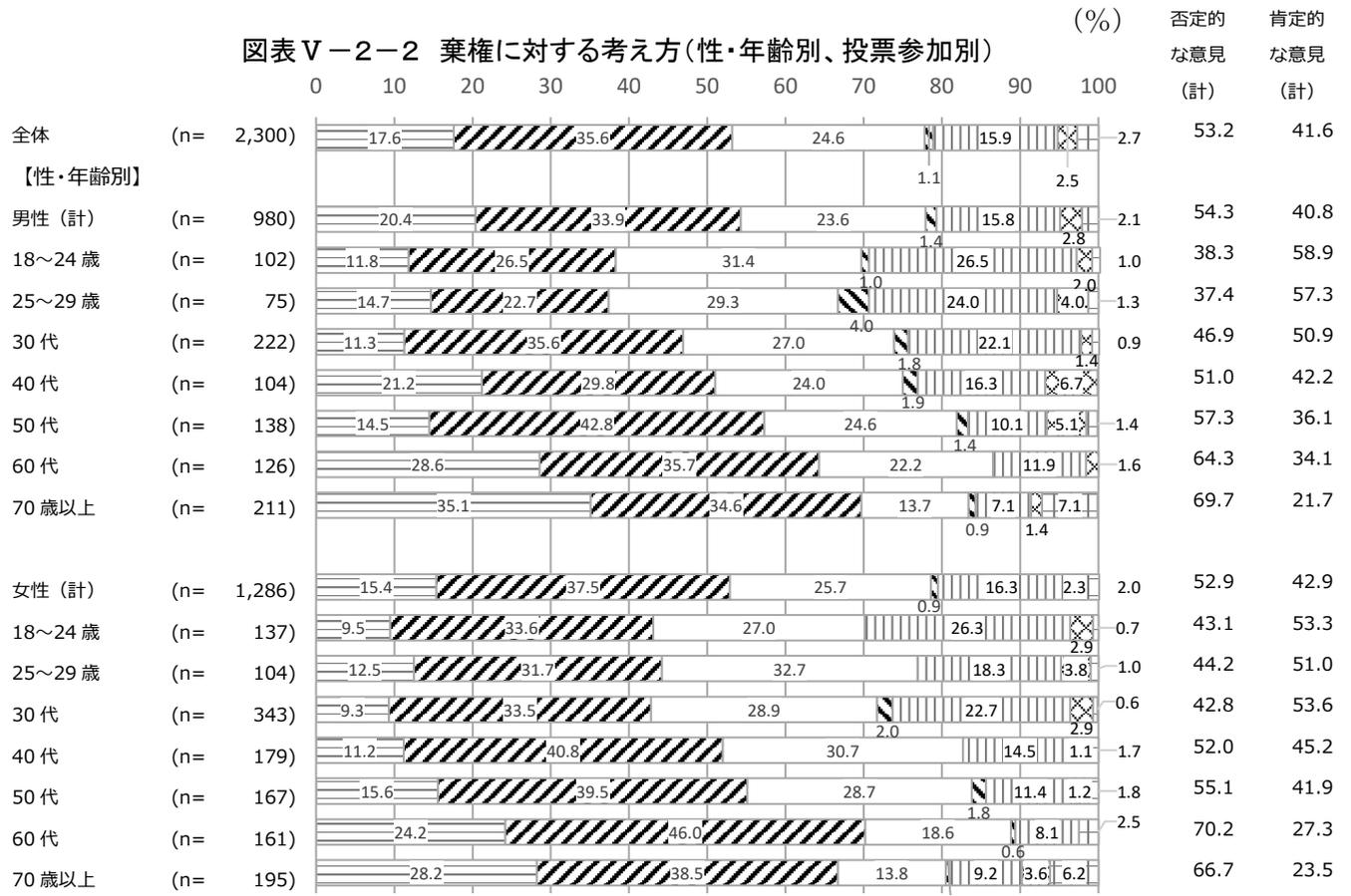
棄権することについて聞いたところ、「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.6%で最も多く、次いで「政治への不信から棄権するのも無理はない」(24.6%)、「選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな」(17.6%)の順となっている。

棄権に対して「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」(35.6%)と「選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな」(17.6%)を合わせた『否定的な意見(計)』は、53.2%となった。一方、「政治への不信から棄権するのも無理はない」(24.6%)と「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(15.9%)と「今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい」(1.1%)を合わせた『肯定的な意見(計)』は、41.6%となった。

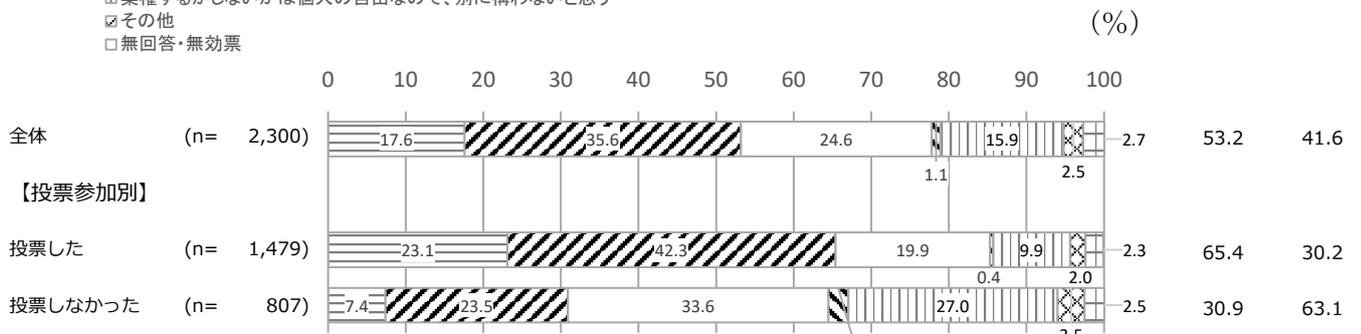
平成29年調査(第17回市長選挙後)と比較すると、棄権することについて『否定的な意見(計)』は減少しており、『肯定的な意見(計)』は増加している。(図表V-2-1)

性・年齢別にみると、棄権に対して『否定的な意見（計）』は、男女ともに若い年齢ほど低く、年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、特に男女ともに60代と70歳以上で6割以上となり、女性60代では7割以上と高い割合となった。（図表V-2-2）

投票参加別にみると、『否定的な意見（計）』は、「投票した」（65.4%）が「投票しなかった」（30.9%）より34.5ポイント高くなっている。（図表V-2-2）



- 選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな
- 当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない
- 政治への不信から棄権するのも無理はない
- 今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい
- 棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う
- その他
- 無回答・無効票

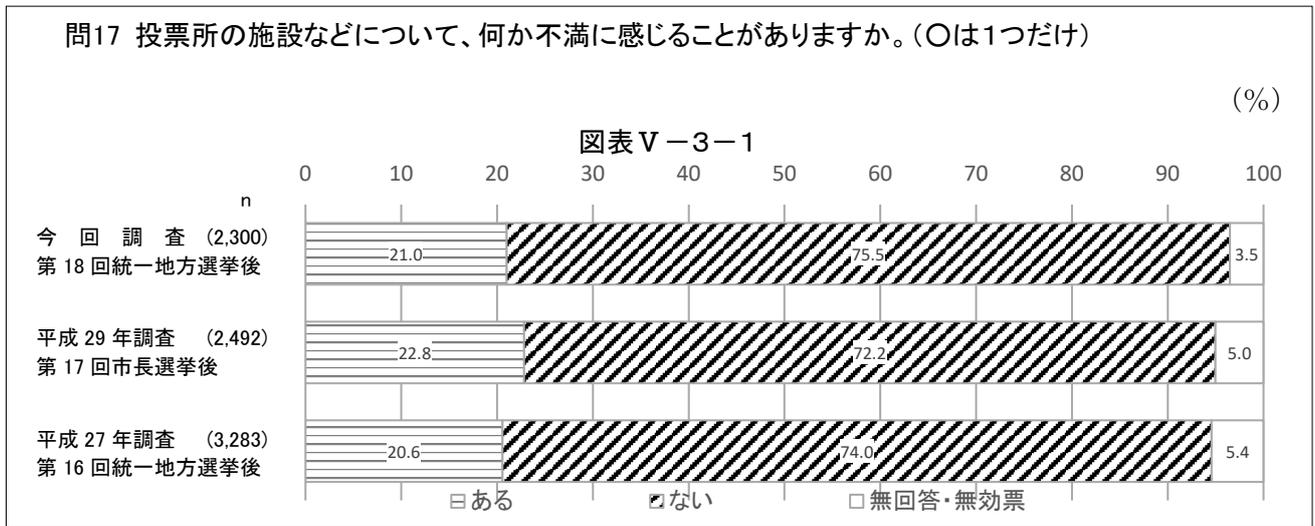


- 選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな
- 当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない
- 政治への不信から棄権するのも無理はない
- 今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい
- 棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う
- その他
- 無回答・無効票

3 投票所施設

(1) 投票所施設への不満の有無

◇ 不満がない人は 75.5%、不満がある人は 21.0%



投票所の施設などについての不満を聞いたところ、不満が「ある」が 21.0%、「ない」が 75.5%となっている。

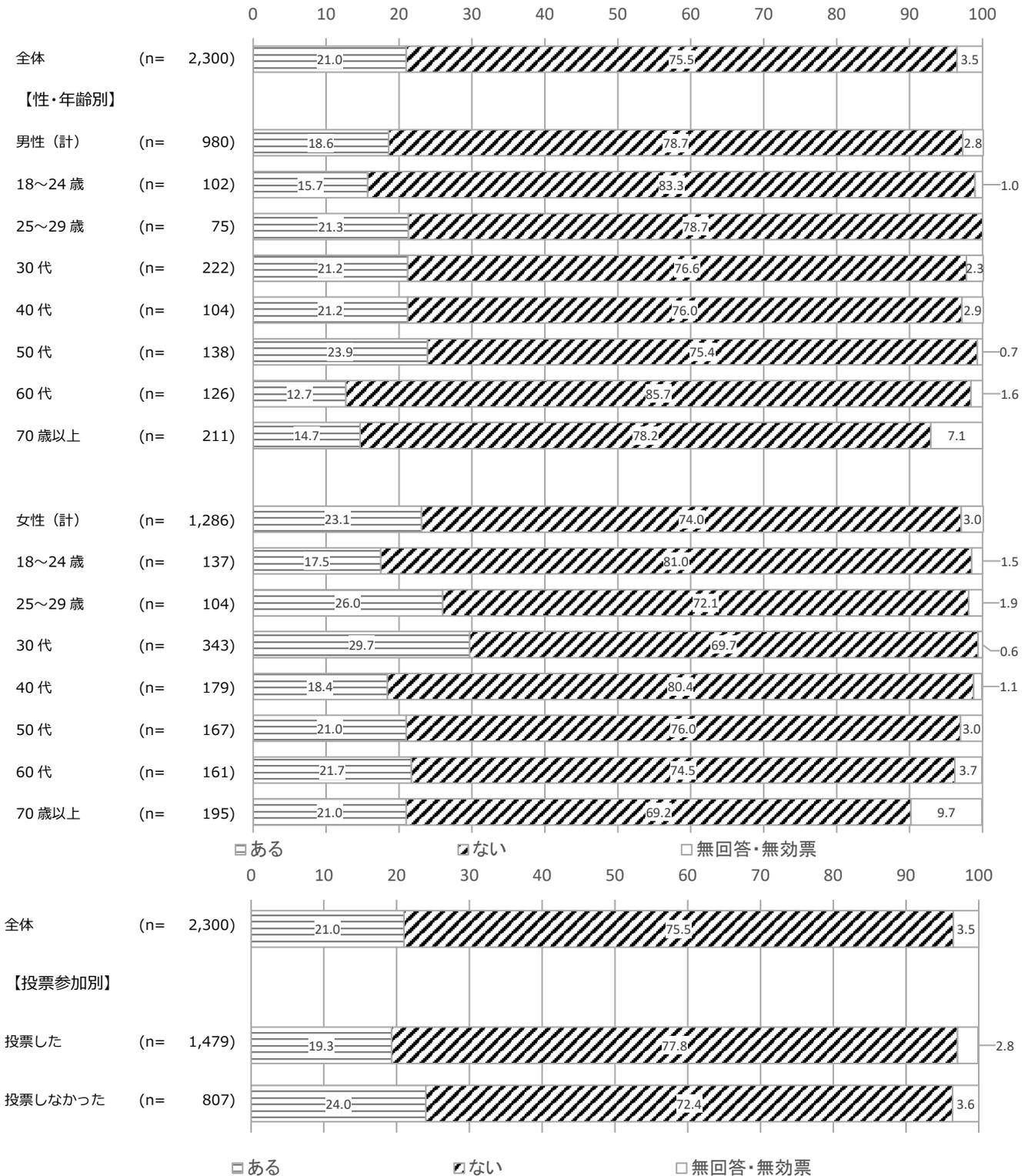
平成 29 年調査（第 17 回 市長選挙後）と比較すると「ある」（21.0%）は前回（22.8%）より 1.8 ポイント減少している。（図表V-3-1）

性・年齢別にみると、不満が「ある」は、男性では50代、女性では30代が最も高く、男性の60代と女性の18～24歳が最も低い。(図表V-3-2)

投票参加別にみると、不満が「ない」は投票した人(77.8%)の方が、投票しなかった人(72.4%)より5.4ポイント高い。(図表V-3-2)

(%)

図表V-3-2 投票所施設への不満の有無(性・年齢別、投票参加別)

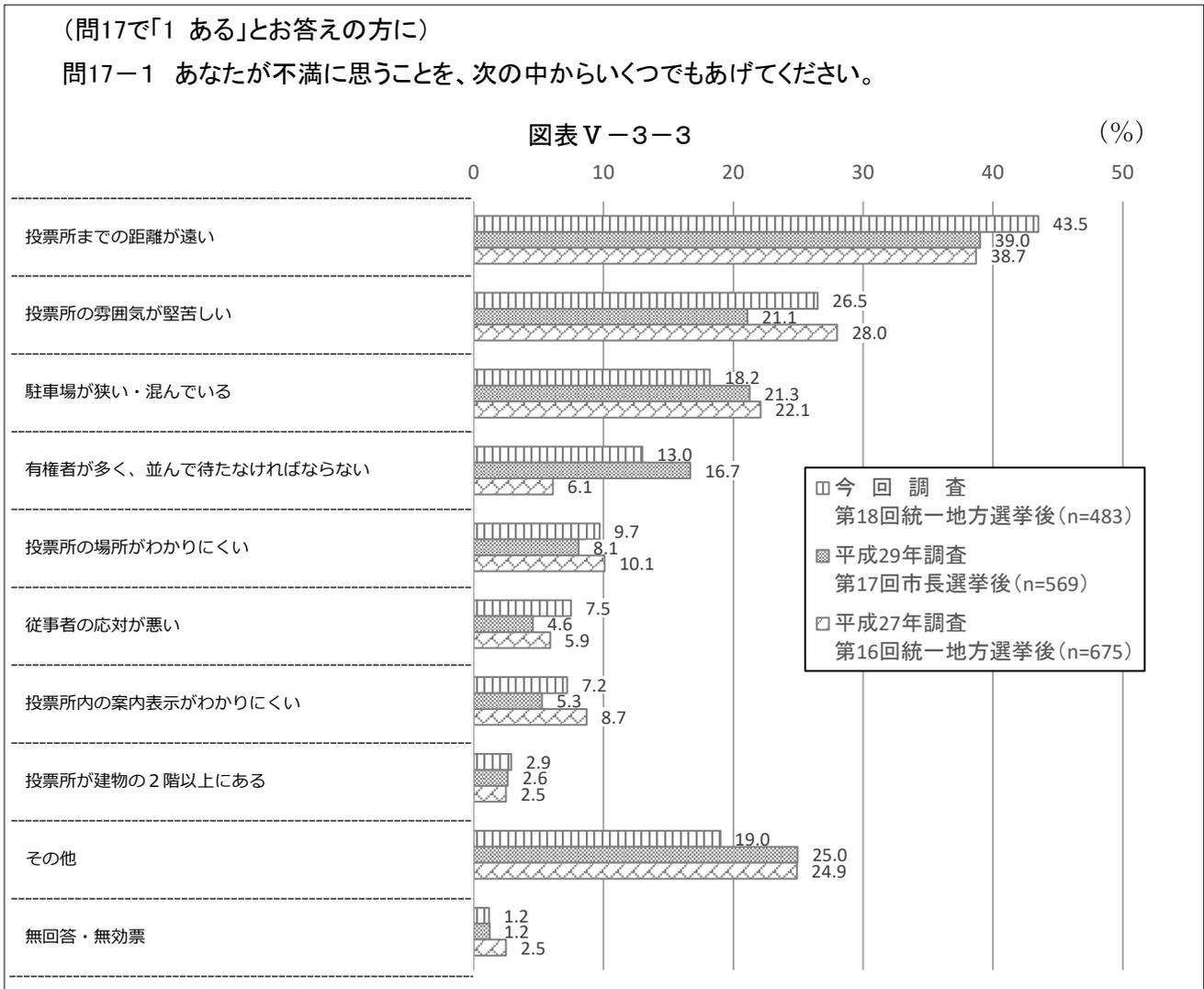


(2) 投票所施設への不満点

◇「投票所までの距離が遠い」が 43.5%

(問17で「1 ある」とお答えの方に)

問17-1 あなたが不満に思うことを、次の中からいくつかもあげてください。



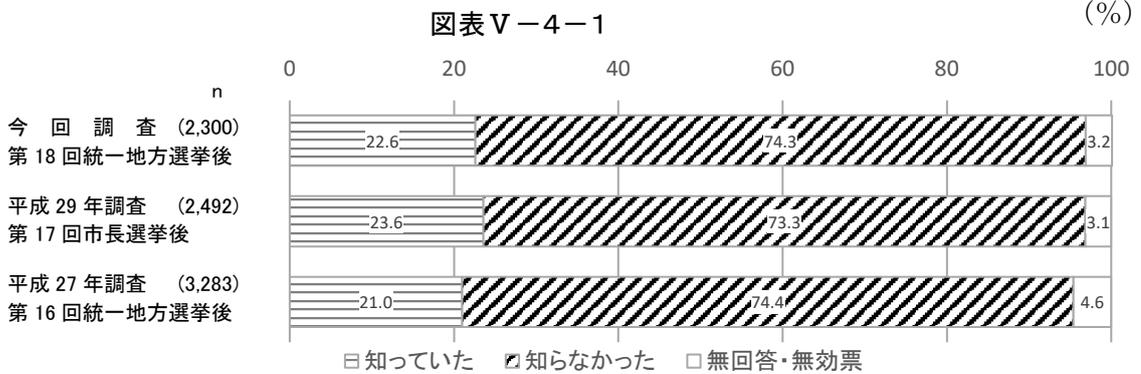
投票所の施設などについて不満が「ある」と答えた方 (483 人) に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所までの距離が遠い」が 43.5% で最も多く、次いで、「投票所の雰囲気が堅苦しい」(26.5%) 「駐車場が狭い・混んでいる」(18.2%) などの順となっている。

平成 29 年調査 (第 17 回 市長選挙後) と比較すると、主な項目のうち、「投票所までの距離が遠い」、「投票所の雰囲気が堅苦しい」、「投票所の場所がわかりにくい」は増加しており、「駐車場が狭い・混んでいる」、「有権者が多く、並んで待たなければならない」は減少している。(図表 V-3-3)

4 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度の認知

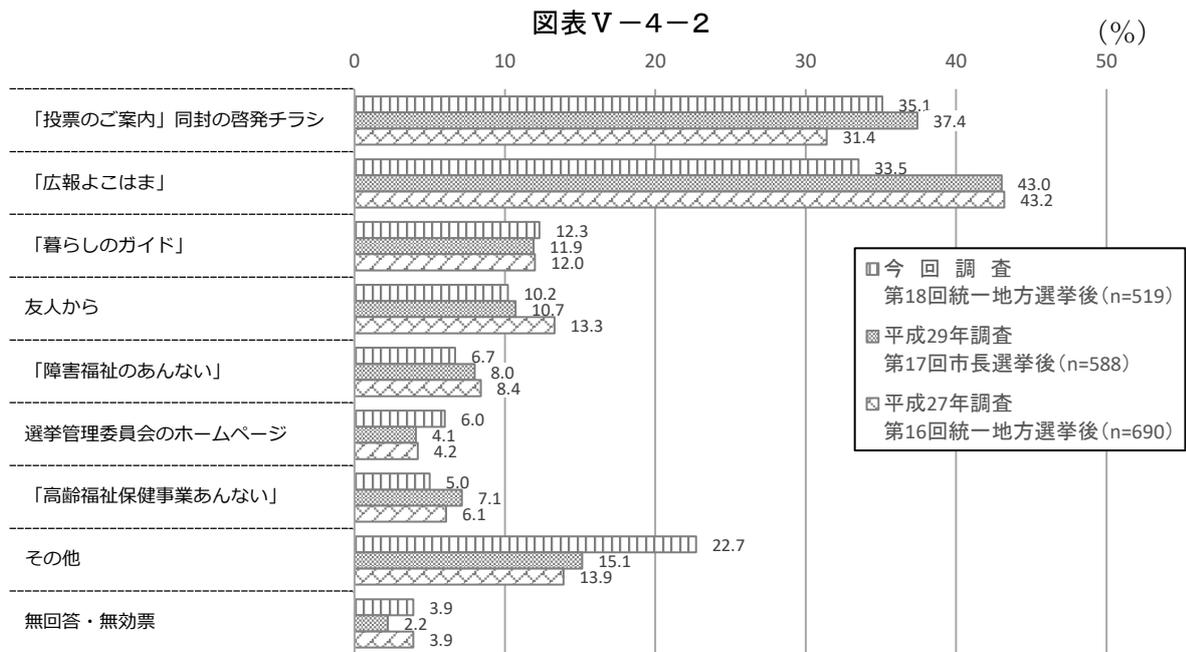
◇ 郵便投票制度を「知っていた」は 22.6%

問18 あなたは、身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができること（郵便投票制度）をご存じでしたか。（○は1つだけ）。



(問18で「1 知っていた」とお答えの方に)

問18-1 このことを何で知りましたか、次の中からいくつでもあげてください。（○はいくつでも）



身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができる（郵便投票制度）ことを知っているか聞いたところ、「知っていた」は 22.6%、「知らなかった」は 74.3%となっている。

平成29年調査（第17回 市長選挙後）と比較すると、「知っていた」（22.6%）が前回（23.6%）より 1.0ポイント減少している。（図表V-4-1）

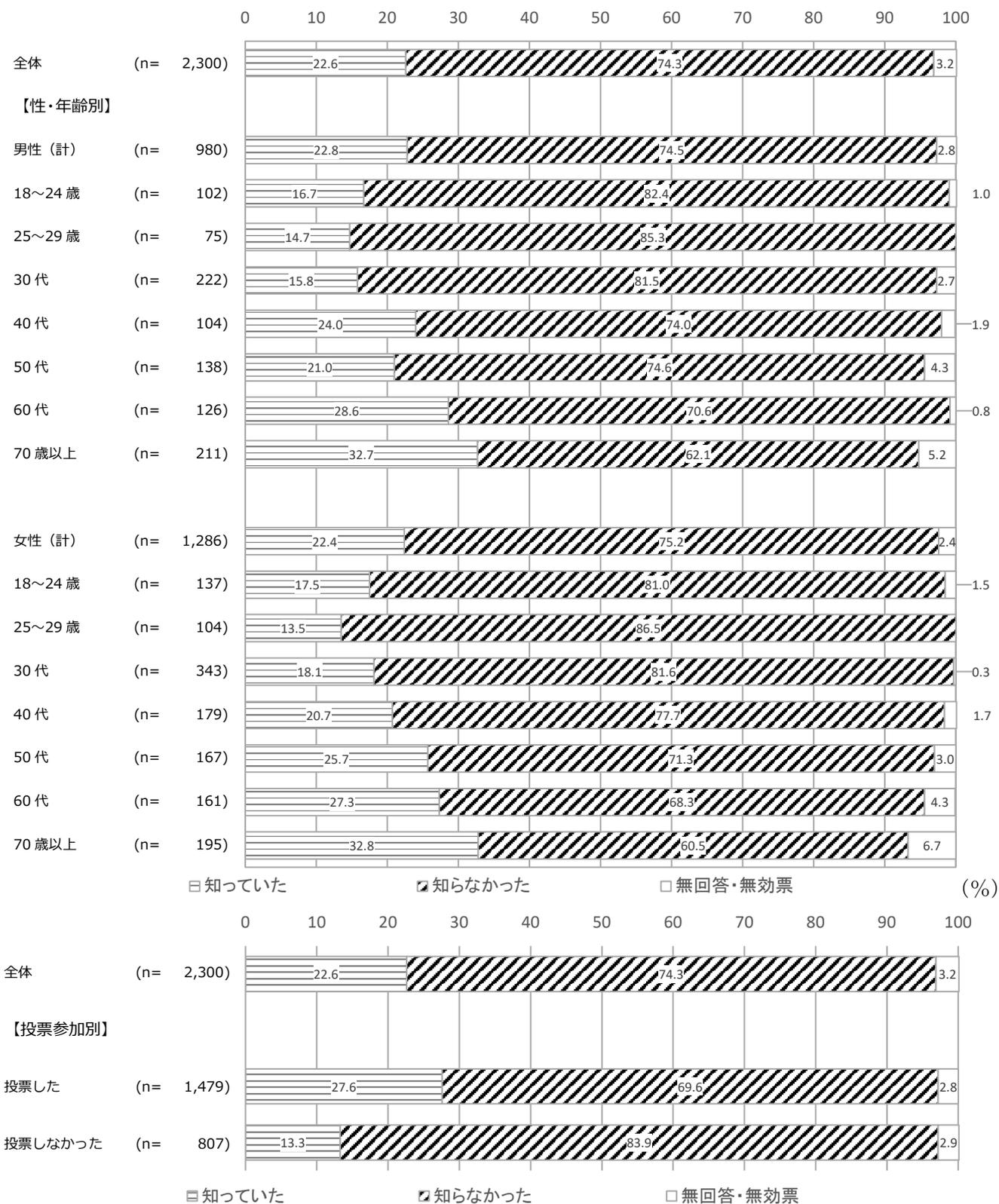
「知っていた」と答えた人（519人）に、知ったきっかけを聞いたところ、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』が 35.1%で最も多く、次いで、『「広報よこはま』』（33.5%）、『「暮らしのガイド』』（12.3%）、『「友人から』』（10.2%）などの順となっている。（図表V-4-2）

平成29年調査（第17回 市長選挙後）と比較すると、主な項目のうち、『「暮らしのガイド』』が増加している一方で、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』、『「広報よこはま』』、『「友人から』』、『「障害福祉のあんない』』が減少している。（図表V-4-2）

性・年齢別にみると、「知っていた」は、男女ともにおおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、男女とも70歳以上で3割強と高くなっている。(図表V-4-3)

投票参加別にみると、「知っていた」は投票した人(27.6%)の方が、投票しなかった人(13.3%)より14.3ポイント高くなっている。(図表V-4-3)

図表V-4-3 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度の認知(性・年齢別、投票参加別)(%)

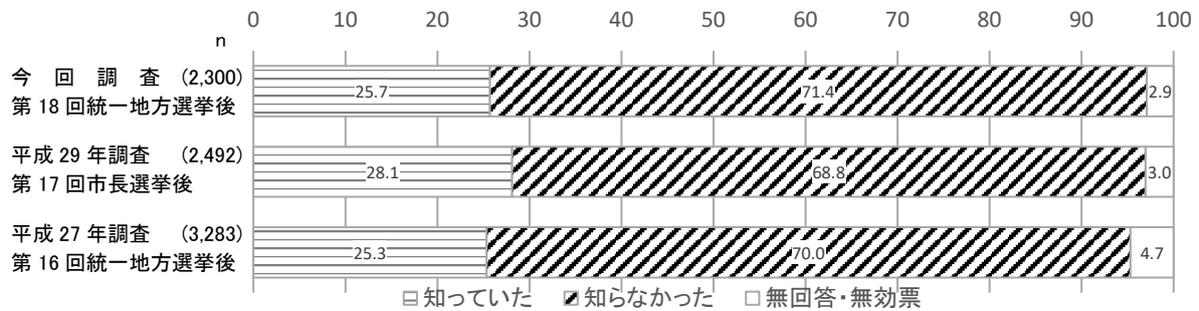


5 病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度の認知

◇ 施設内投票制度を「知っていた」は 25.7%

問19 あなたは、都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができることをご存じでしたか。(○は1つだけ)。

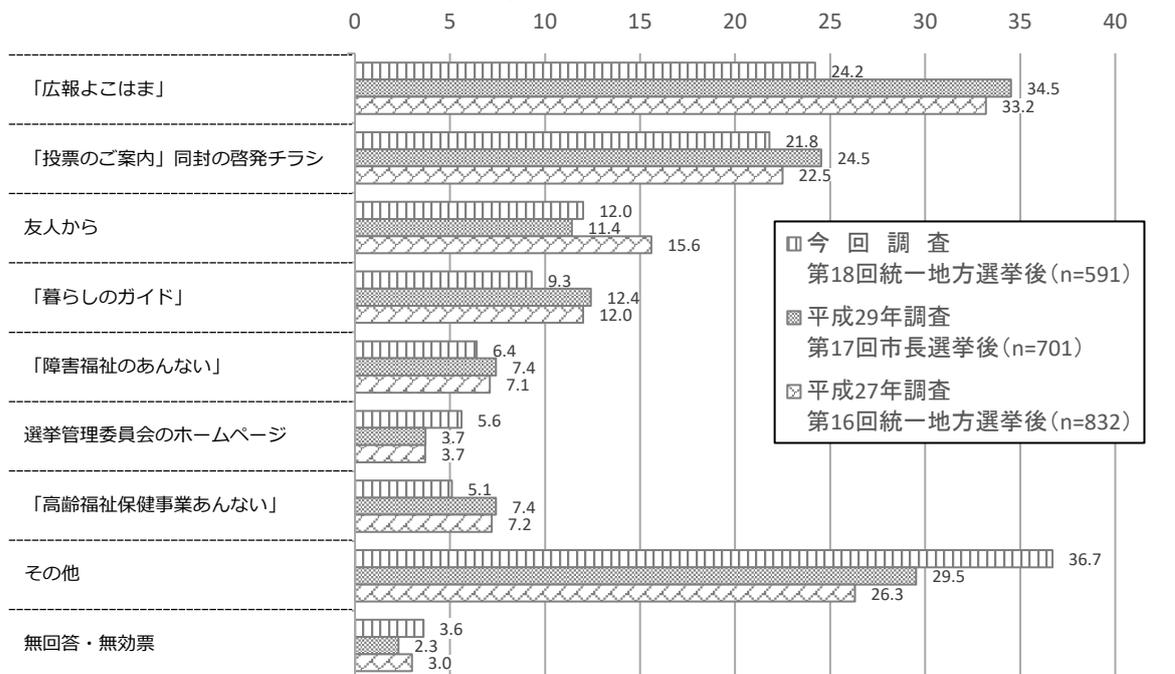
図表V-5-1 (%)



(問19で「1. 知っていた」とお答えの方に)

問19-1 このことを何で知りましたか、次の中からいくつでもあげてください。(○はいくつでも)

図表V-5-2 (%)



都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができることを知っているか聞いたところ、「知っていた」は 25.7%、「知らなかった」は 71.4%となっている。(図表V-5-1)

「知っていた」と答えた人(591人)に、知ったきっかけを聞いたところ、『「広報よこはま」(24.2%)、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ(21.8%)、「友人から」(12.0%)などの順となっている。(図表V-5-2)

平成29年調査(第17回市長選挙後)と比較すると、「友人から」(12.0%)は、前回(11.4%)より0.6ポイント増加し、『「広報よこはま」(24.2%)は、前回(34.5%)より10.3ポイント、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ(21.8%)は、前回(24.5%)より2.7ポイント減少している。(図表V-5-2)

性・年齢別にみると、「知っていた」は、「男性」(22.9%)より「女性」(27.9%)の方が5.0ポイント高く、男女とも年代が高くなるほど割合が高くなっており、70歳以上の年代で男性は3割、女性は4割を超えている。(図表V-5-3)

投票参加別にみると、「知っていた」は投票した人(30.6%)の方が、投票しなかった人(16.7%)より13.9ポイント高くなっている。(図表V-5-3)

図表V-5-3 病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度の認知

(性・年齢別、投票参加別)

(%)

